

「田中はじめ モー一步へ！」 ブロック事務所開きを開催

日本共産党田中はじめブロックは1月31日、ウイルス感染症対策を取った上で、東本町4丁目に開設した事務所開きを行いました。



団結ガンパローで決意を固めあう参加者

最初に、外谷久人川津後援会長が「SNSを活用し、宣伝をすすめるよう」と開会あいさつし、尾村利成県議が「菅政権の無策が国民の支持を失っている。市民の声を大切にする松江市民議会の活動をさらに強めよう」と訴えました。

市民の願いを届ける 抛り所共産党の3議席

決意表明に立った田中はじめ市議は、「議会では原発反対を貫き、国保基金を市民に還元せよと主張してきた。議

会外でも、4年間で200以上の要望を市に届けてきた。共産党の議席は市民の願いを届ける最後の抛り所。3議席の力で引き続き頑張りたい」と語りました。続いて参加者から、介護・医療職の実態報告、田中はじめ市議の活動と共産党3議席への期待の声が相次ぎました。

市民との対話を広げ 総選挙・市議選勝利を

最後に、清原昭代表が「市民との対話を大きく広げ、総選挙で政権交代、市議選勝利で政治を前に進めよう」とのべ、団結ガンパローで決意を固めました。

ざいそう

市民と共に歩んで

「わたしにもネクタイして たちばなふみ」



4歳の時、ネクタイをして父に抱えられた写真がある。棟上げの時に、自分も上がりたくて「私もネクタイして」とせがんだのだそう。男しか儀式に参加しない、社会的性差(ジェンダー)を初めて幼心に実感した出来事だった

のだと思う。就職活動では、女性の正社員の枠は2割と言われていたが、その条件の中で競い合うし手はなかった。女性活躍と言われて数年たつが、女性が活躍するために家事労働(ケア労働)から解放されるわけにはなかなかない。女性は社会進出もし、家事労働もこなし、地域活動も頑張らなくてはならない。ジェンダー平等はどのような世界に実現できるだろう。戦後す

ぐから男女同一賃金は労働組合のスローガンだった。女性の平均賃金はまだまだ男性の6割にも満たない。子育て世代ではその差はさらに広がっている。保育や介護、スーパーの店員など生活に不可欠なエッセンシャルワークの賃金は低くおさえられている。少なくとも最低賃金の底上げを早期に実現しなければと思う。コロナ禍は、弱い立場の人とりわけ女性たちをますます苦しめている。森喜朗氏の発言でも女性蔑視の日本社会の姿があまり出された。豊かさとは何か、富とは何か。コロナを乗り越えた先の世界を皆で考えつくっていききたい。

「コロナ禍とジェンダー・女性」 地域自治講座開催

6日(土) 島根県民会館にて、しまね地域自治研究所(保母武彦理事長) 総会と地域自治講座が開催され、講座



質問に答える河野氏(左)と片岡氏(右)

には約40名が参加しました。講師は、性暴力被害者支援センターさひめ理事の河野美江さんと島根大学法文学部教授の片岡佳美さん。

河野さんは、性暴力がなぜ起こるのか、性暴力被害者への実際の支援の状況について話されました。「同意がなく強要されたすべての性行為」は性暴力であること、性暴力被害者ワンストップセンターなどの相談窓口があることを知ってほしいと強調されました。

片岡さんは、母子世帯の収

地域自治講座開催

入が低い上に、母親がパート・アルバイトで就業している割合が高いため、コロナ禍での首切りや就業時間の大幅な切り下げにより困窮化していると話されました。

女性に低賃金労働者として「活用」された上に、労働者を再生産するための「ケア」まで担わされていること、これが女性の自立を妨げDVの温床にもなっていると述べられました。そして、こうした近代資本主義社会を変え、弱者にやさしい社会にしてい

森発言に抗議のデモ 「女性差別ゆるさない社会を」

6日、新日本婦人の会島根県本部(山崎泰子会長)のよびかけで、森喜朗東京五輪・パラリンピック組織委員会会長の「女性がたくさん入っている会議は時間がかかる」な



森発言に抗議のプラカードを掲げる参加者

どの女性べつ視発言に抗議するスタンディングアピール&リレートークが松江駅前で行われました。

参加者は「#森喜朗氏の退任を求めます」「ジェンダー平等社会をつくろう」、お国ことばで「やめてごせ女性蔑視だ森会長」等と書いたプラカードを持ち寄りアピール。

次々にマイクを握り、「ジェンダーギャップ121位を裏付けた」「記者会見も反省が見られない」「わきまえない女」が社会をかえてきた」「各国の大使館が抗議している。世界から見ると日本は異

常」「森氏の退任のみならず、性別関係なく公正な社会へ、人びとの意識が変わっていくことを願っています」などリレートークを行いました。日本共産党から、たちばなふみ党松江市委員会ジェンダー平等委員長が参加し、「森氏は会長を辞任すべきです。共にジェンダー平等社会を実現しましょう」とよびかけました。拍手しながら「その通り!」と立ち止まる通行人や、「署名はありませんか」と声をかける人、高校生数人がリレートークを聞き、写真を撮っていくなど、注目を集めました。